

商工会女性部はまちに
元気と安心をお届けしています。

はちみつ 通信

「福が生まれるまち」で
人と人の輪をつなげる
「福つかみしあわせ地蔵」

福生市商工会女性部(東京都)



福生市は、東京の西多摩エリアの玄
関口とも呼ばれる人口約5万人のまち
です。
遠くに富士山を仰ぐ多摩川のほとり
には、田村酒造場と石川酒造という2
つの酒蔵があり、在日米軍と航空自衛
隊の横田基地沿いを走る国道16号には、
アメリカな雰囲気のお店が賑やかに
立ち並びます。
福生市商工会女性部では、福生市を
盛り上げて支える力になると、それ

ぞれの行事に積極的に関わっています。
春の桜まつり、6月のほたる祭、夏の
七夕まつり、秋の福祉バザー、11月の
蔵開き、12月のふくふくまつりなど、
一年を通して多彩な行事が展開されて
います。

とくに七夕まつりでは、女性部が2
007年から「福つかみしあわせ地蔵」
(手づくりの地蔵の置物)を制作・販売
しています。制作は約3カ月前から始
まり、互いに忙しい部員同士の貴重な

まちを盛り上げる
やなせたかし先生ゆかりの
生姜音頭
南国市商工会女性部(高知県)



左/南国市など物部川流域エリアの観光イベント「ものべすと」でも披露
右/『あんぱん』の初回を見る会 in 南国市)にて

交流の場となっています。

一昨年からは、お地藏様のイラストをプリントしたTシャツも制作・販売しています。

自分たちの手でぎゅっと握って形づくのお地藏様が、福を生む福生の七夕のアイコンになるだけではなく、地域活性化と私たち女性部の団結力の源になってくれるよう、これからも大切に育てていきます。



上／お地藏様のTシャツを着た女性部員
左、中／個性的な「福つかみしあわせ地蔵」と制作風景。部員が1体ずつづくりしている
右／七夕まつりでの販売の様子

現在放送されているNHK連続テレビ小説『あんぱん』は高知県出身の漫画家・やなせたかし先生とその妻・小松暢さんをモデルとしたドラマで、たびたび登場する「御免与駅」は、南国市に実在する「後免駅」がモデルであるといわれています。

南国市は高知県中部に位置し、平安時代から「土佐のまほろば」と呼ばれてきました。「まほろば」とは、周囲を山々に囲まれ、実り豊かで美しく住みよいところを意味します。その名の通り、南国市は自然に恵まれた歴史あるまちとして親しまれています。

やなせ先生は、南国市制50周年（2009年）の記念に、「生姜地蔵」の製作や、「生姜音頭」の作詞作曲をされています。高知県は生姜の生産量が全国一であり、特産品として生姜館の商品化に南国市商工会女性部有志が関わっていたご縁で、生姜音頭を商工会



やなせ先生からいただいた着物を着て生姜音頭を踊る女性部員

女性部が踊ることになりました。

現在、生姜館の製造は行われていませんが、地元を元気にしたいというやなせ先生の思いは商工会女性部で受け継がれ、南国市内外のイベントで生姜音頭を披露して地域を盛り上げています。

今後も南国市のPRや活性化の一助となるように、部員一同、意欲的に取り組んでいきます。